

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 28 年 6 月 22 日現在

機関番号：33305

研究種目：基盤研究(B) (海外学術調査)

研究期間：2012～2015

課題番号：24401033

研究課題名(和文) 中国とロシアにおける渤海(698～926年)の考古学的研究

研究課題名(英文) The archaeological study of Bohai (698-926) in China and Russia

## 研究代表者

小嶋 芳孝 (Kojima, Yoshitaka)

金沢学院大学・文学部・教授

研究者番号：10410367

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 11,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、2009年度から開始した基盤研究(B)「ロシア沿海地方における渤海(698～926年)の考古学的研究」(課題番号21401031)にかかる終了前年度申請が採択され、2012年度から研究対象を中国東北地方に拡大して実施した。この間、中国東北地方に所在する渤海上京などの都城関係遺跡を訪問し、また渤海遺跡の分布状況や土器・軒丸瓦の研究にについて多くの知見を得ることができた。一方、ロシア沿海地方でもポシエト湾周辺の遺跡踏査を行い、2009年度から始めた調査の補足を行った。調査成果の報告書『中国とロシア沿海地方における渤海の考古学的研究』を、2016年3月28日に刊行した。

研究成果の概要(英文)：This study had been started on the base of “The archaeological study to the Bohai (698-926) at the maritime region Russia” since 2009 to 2011. And it was started since 2012, the area of study had been expanded from the maritime region Russia to North China. We visited the Upper capital of Bohai and other sites in north east China, and could study about the distribution of the Bohai site, pottery, and roof tile. On the other hand, we could carry a supplementary investigation at the maritime region Russia. We visited the Posiet bay at maritime region Russia to see the Bohai site. On 28th March 2016, we published the report book of our study since 2009, which was named “The archaeological study of Bohai in China and maritime region of Russia”.

研究分野：考古学

キーワード：渤海 靺鞨 ロシア沿海地方 中国東北地方 都城 遺跡の分布 アスファルト

1. 研究開始当初の背景

- (1) 2009年度から科学研究費補助金・基盤研究(B)「ロシア沿海地方における渤海(698~926年)の考古学的研究」(課題番号21401031)により、ロシア沿海地方で遺跡踏査や遺物調査を2011年度まで行ってきた。
- (2) ロシア沿海地方の様相が見えてきたこともあり、渤海の中心的な領域でもあった中国も対象に加えた研究を2012年度から「中国とロシアにおける渤海(698~926年)の考古学的研究」として実施したのが本研究である。

2. 研究の目的

中国における渤海時代の考古学的研究の成果を学ぶと共に、ロシア沿海地方における渤海遺跡の調査研究を引き続き行うことを目的としている。

3. 研究の方法

- (1) 中国での研究 中国での研究は、渤海に関する発掘調査報告書や考古学研究の成果を整理すると共に、関係する遺跡を訪問した。
- (2) 研究交流協定 ロシア研究に当たって、研究代表者が勤務する金沢学院大学とロシア科学アカデミー極東支部考古学歴史学民族学研究所(以下研究所と記す)と研究交流協定を締結してきた。2012年度からの研究でも協定を継続し、以下の項目を中心に研究交流することとしている。
- ロシア沿海地方の渤海を中心とする遺跡データベースの構築  
ロシア沿海地方の渤海時代遺跡踏査  
ロシア沿海地方の渤海遺跡から出土した土器、金属器、ガラス製品等の遺物調査

4. 研究成果

(1) 中国

研究資料の整理 中国における渤海史研究の成果を、論文や発掘調査報告書により整理した。渤海の瓦当編年が中国と日本で大きく相違していることから、渤海前期の六頂山墓群、西古城、八連城などの調査報告書をもとに瓦当編年を検討し、渤海前期の瓦当編年の構築に見通しをつけた。

遺跡訪問 8世紀後半から滅亡(926年)まで都城が置かれた上京(黒竜江省牡丹江市)を訪問し、最近の研究状況を知ることが出来た。また、9世紀頃から渤海の土器組成に契丹系土器が加わることが判明したことから、内蒙古自治区の博物館や遼上京を訪問して契丹系考古遺物の様相について検討した。ロシア沿海地方北部では、渤海滅亡前後から契丹の影響を強く受けたパクロフカ文化が広がっており、また渤海成立以前には靺鞨、その以前にはポリツ

エ文化の遺跡が多く営まれている。ロシア沿海地方の西隣りに位置する黒竜江省北東部を訪問し、ポリツエ文化に平行する遼兎嶺文化や靺鞨文化の遺跡を見学した。とくに、七星河流域では黒竜江省考古研究所が優れた調査報告書を刊行しており、今回の研究に大変参考となった。ロシア沿海地方北部の地域に見られるポリツエ文化から靺鞨文化の集落は、黒竜江省東北部を中心とする同時期の文化との関係を基礎に検討する必要があることを認識した。

(2) ロシア

データベース ロシア科学アカデミー極東支部考古学歴史学民族学研究所の所員が中心となって作成したが、公開のための内部的な手続きが進んでいない。このため、現時点での公開は断念し、沿海地方における靺鞨や渤海の遺跡数を各地区毎に整理した検討を行った。

遺跡踏査 沿海地方南部のハサン区にあるポシエト湾の周辺地域を訪ね、遺跡の踏査をおこなった。ポシエト湾に面したスロバ半島とクラブ半島では、それぞれ半島基部を横断する土塁を確認した。この土塁は、半島部に置かれた監視所などの施設を防御する目的で構築されたものと推定している。

遺物調査 ウラジオストクのロシア科学アカデミー極東支部歴史学考古学民族学研究所が所蔵する、ポリツエ文化期から渤海に至る時期のガラス玉の肉眼観察調査をおこなった。対象としたのはチエルニヤチノ5遺跡、シニエスカルイ遺跡、クラスキノ城跡などである。ほとんどが管切り技法で制作されており、女真期以降になると巻き付け技法に変化するという傾向を把握することが出来た。また、2016年3月に刊行した『報告書』では、クラスキノ城跡から出土したアスファルト状物質や鉄塊についての分析結果を報告することが出来た。また、アムグーで採集した管玉未製品など沿海地方で出土した玉製品の調査をおこない、その成果も上記『報告書』に掲載した。

(3) 報告書の刊行

2009年度~11年度、2012年度~15年度の調査成果をまとめた報告書『中国とロシアにおける渤海考古学の研究』を2016年3月28日付けで刊行した

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計7件)

酒寄雅志「遺唐使の航路」『栃木史学』第28号、査読無、2014、pp.38-84  
中澤寛将「古代・中世環日本海沿岸の港湾遺跡 日本列島対岸地域からみた奥州津軽十三湊」『島と港の歴史学』、中央

大学出版部、査読無、2015、pp.129-167  
小嶋芳孝「渤海船の渡来」『古代環東海交流史2 渤海と古代日本』東北アジア歴史財団、査読無、2015、pp.141 - 157  
中澤寛将「渤海の地方寺院の構造と成立年代 ロシア沿海地方の寺院遺跡を中心として」『中国とロシア沿海地方における渤海の考古学的研究』金沢学院大学、査読無、2016、pp.78-93  
小嶋芳孝「渤海前期の王都に関する研究」『中国とロシア沿海地方における渤海の考古学的研究』金沢学院大学、査読無、2016、pp.64-77  
小嶋芳孝、E.Gelman「クラスキノ城跡から出土したアスファルト状物質と容器の研究」『中国とロシア沿海地方における渤海の考古学的研究』金沢学院大学、査読無、2016、pp.108-117  
河村好光「ロシア沿海地方の玉」『中国とロシア沿海地方における渤海の考古学的研究』金沢学院大学、査読無、2016、pp.118-151

〔学会発表〕(計 18 件)

小嶋芳孝「ロシア沿海地方における渤海時代の遺跡分布から見た歴史像」環才ホールツク海地域における前近代交易網の発達と諸民族形成史の研究会、2012年6月5日、北海道大学  
小嶋芳孝「日本から渤海に渡航した人々が見た風景」金沢学院大学文学部歴史文化学科・公開講座、2012年12月5日、富山県民会館  
小嶋芳孝「2012年度PBAプロジェクト・ロシア沿海地方の渤海遺跡調査報告」第14回北アジア調査研究報告会、2013年2月1日、石川県立歴史博物館  
中澤寛将「渤海平地城の成立をめぐる諸問題」第14回北アジア遺跡調査研究報告、2012年2月1日、石川県立歴史博物館  
小嶋芳孝「渤海平地城とクラスキノ城跡 - ポシエト湾周辺遺跡群の評価 - 」渤海を掘る10 - 沿海州渤海古城 - クラスキノ古城の機能と性格 - 、2013年3月3日、青山学院大学  
小嶋芳孝「渤海考古学の現状」ユーラシア研究会、2013年7月26日、横浜ユーラシア文化館  
小嶋芳孝「渤海における五京制の問題 - 旧国に関して」ロシア極東における中世考古学 - その課題と歴史文化遺産の保護、2013年9月20日、ロシア科学アカデミー極東支部歴史学考古学民族学研究所  
竹森杏奈、小嶋芳孝、中村晋也、Y.Nikitin,E.Gelman「ロシア沿海地方のガラス玉について」第15回北アジア調査研究報告会、2014年3月1日、札幌学院大学  
中澤寛将「ロシア沿海地方の渤海村落・寺院遺跡出土資料調査」第15回北アジア

調査研究報告会、2014年3月2日、札幌学院大学  
小嶋芳孝「渤海の仏教寺院」東アジアの古代史講座、2014年3月8日、石川県生涯学習センター  
小嶋芳孝「伝北朝鮮開城市出土の渤海カンザシについて考える」第26回東アジア古代史・考古学研究会、2015年1月10日、龍谷大学大谷学舎  
小嶋芳孝「六頂山墓群の検討(瓦出土墳墓を中心に)」第16回北アジア調査研究報告会、2015年2月21日、東京大学  
小嶋芳孝「渤海の交通路と日本道」科研調査成果報告会「渤海の実像に迫る」2015年3月1日、金沢市文化ホール  
中澤寛将「渤海と北方地域との交流」科研調査成果報告会「渤海の実像に迫る」2015年3月1日、金沢市文化ホール  
酒寄雅志「渤海の領域再考」科研調査成果報告会「渤海の実像に迫る」2015年3月1日、金沢市文化ホール  
小嶋芳孝「渤海前期の都城に関する研究」吉林大学边疆考古学中心主催「東北アジアの古代社会と文化・国際シンポジウム」2015年9月25日、吉林大学  
小嶋芳孝、Y.Nikitin「ロシア沿海地方の渤海遺跡 - 遺跡分布から見た領域論 - 」第17回北アジア調査研究報告会、2016年2月27日、石川県立歴史博物館  
中澤寛将「渤海葬制の諸問題」第17回北アジア調査研究報告会、2016年2月27日、石川県立歴史博物館

〔図書〕(計 2 件)

中澤寛将『北東アジア中世考古学の研究 靺鞨・渤海・女真』六一書房、2012  
小嶋芳孝編『中国とロシア沿海地方における渤海の考古学的研究』金沢学院大学、2016

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

#### 6. 研究組織

##### (1) 研究代表者

小嶋芳孝 (KOJIMA YOSHITAKA)  
金沢学院大学・文学部・教授  
研究者番号：10410367

##### (2) 研究分担者

( )  
研究者番号：

##### (3) 連携研究者

佐々木圭一 (SASAKI KEIICHI)  
金沢学院大学・基礎教育機構・准教授  
研究者番号 50340021

中村晋也 (NAKAMURA SHINYA)  
金沢学院大学・文学部・准教授  
研究者番号：10301003

田村晃一 (TAMURA KOICHI)  
(財) 東洋文庫研究部・研究員  
研究者番号：30082613

早乙女雅博 (SAOTOME MASAHIRO)  
東京大学・大学院人文社会系研究科・教授  
研究者番号：80150035

手塚直樹 (TEZUKA NAOKI)  
青山学院大学文学部・教授  
研究者番号：80337857

清水信行 (SHIMIZU NOBUYUKI)  
青山学院大学文学部・教授  
研究者番号：00178980

鈴木靖民 (SUZUKI YASUTAMI)  
国学院大学文学部・教授  
研究者番号：20052160

酒寄雅志 (SAKAYORI MASASHI)  
国学院大学栃木短期大学・教授  
研究者番号：90187055

##### (4) 研究協力者

A. イブリエフ (A. Ivliev)  
ロシア科学アカデミー極東支部歴史学考古学民族学研究所・副所長

Y. ニキーチン (Y. Nikirtin)  
ロシア科学アカデミー極東支部歴史学考古学民族学研究所・付属博物館長

E. ゲルマン (E. Gelman)

ロシア科学アカデミー極東支部歴史学考古学民族学研究所・中世研究室研究員  
中澤寛将 (NAKASAWA HIROMASA)  
青森県教育委員会文化課主事  
河村好光 (KAWAMURA YOSHIMIATSU)  
石川考古学研究会